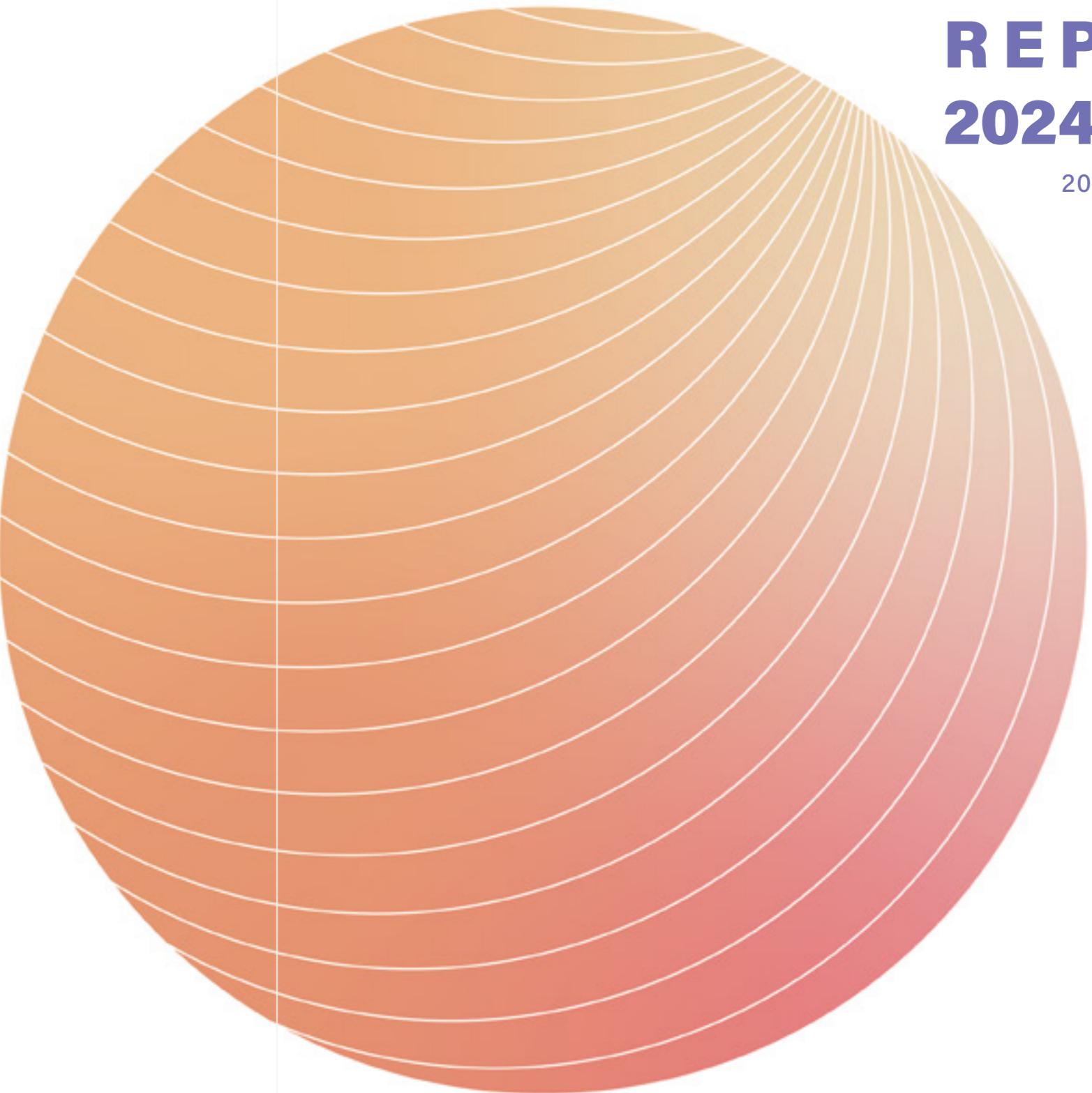


# SIMI ANNUAL REPORT 2024-2025

2024.07 - 2025.06



**SIMI** 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ  
Social Impact Management Initiative

# 「社会的インパクト・マネジメント」の社会実装により、社会価値創造を促進する

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（SIMI）は、日本において事業者、資金提供者・仲介者、行政、中間支援組織・シンクタンク、評価者・研究者など多様なメンバーが連携して、日本全体として「社会的インパクト・マネジメント」を普及させるためのマルチセクター・イニシアチブです。「普及啓発」「知見の高度化」「ラーニング・コミュニティ形成／人材育成」の3つの観点から「社会的インパクト・マネジメント」の普及に取り組んでいます。

## VISION

社会的インパクト・マネジメントが実装され、社会課題解決や社会価値創造が行われている社会

## MISSION

あらゆる組織の社会的インパクト・マネジメントを促進するとともに、組織や業界、活動分野を越えた参画・協働を加速する共創基盤を提供します。



※SIM=社会的インパクト・マネジメント

代表理事から見たSIMI2024-25年度とこれから | 今田 克司 | SIMI代表理事

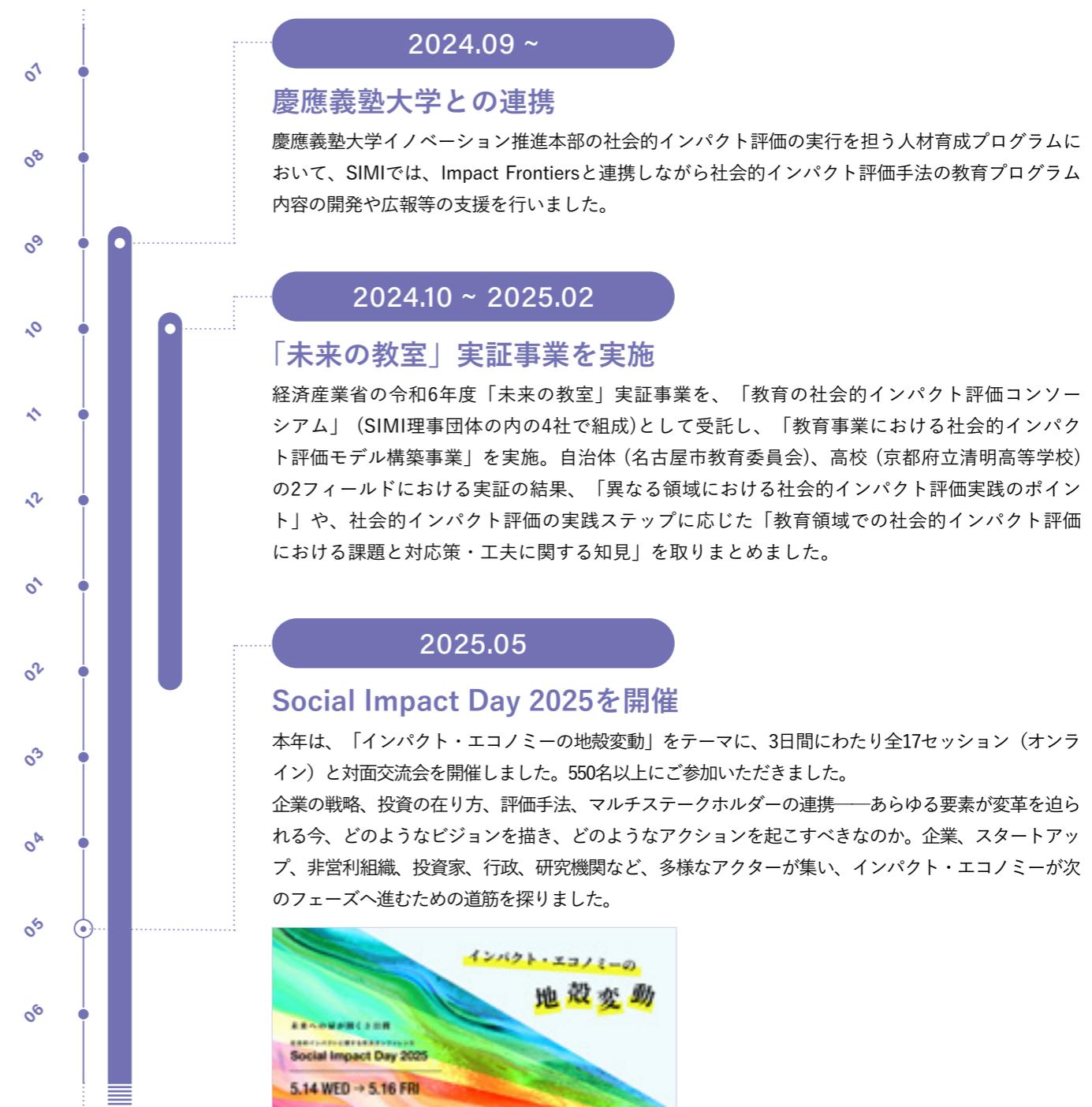
2024年から2025年にかけて、グローバル社会のサステナビリティやインパクトへの大きな流れ逆行するような動きやこれを見えていくくなるような動向が目立っています。戦争や紛争、権威主義の台頭にも終わりが見えず、世界は混沌の度合いを増していると言えるでしょう。SIMI界隈では、これを社会システムの「スナップ・バック」（システムが既存の秩序に戻ろうとする一時的な振り戻し）と見る向きが強いですが、とはいっても、インパクト・エコノミーの到来に向けて、取り組みをいかに巻き直していくかが問われる段階に突入したと言えるでしょう。そこでは、投資家、企業、スタートアップ、非営利組織、行政、研究機関など、多様なアクターが共通の大きな方向性を基盤に集結することが一層求められていることは間違ひありません。そんな時代におけるSIMIの役割を問い続け、世界の新機軸を創り出す動きへと参画していきたいと考えています。



SIMI COMMENTS

## 2024年度の主な取り組み

設立5年目となる2024年度は、新規事業や国内外の関係機関との連携が拡大しました。2024年度の活動を通じて、SIMIの活動に参加するステークホルダーは広がりを見せています。



## 2024年度 主な講演

（講演者：今田克司代表理事）

- 2024.08.02 AVPN Impact Investing Fellowship (AVPN) - 「Building Impact Eco-System in Japan」
- 2024.09.10 Tech for Impact Summit (Socious) - 「持続可能なイノベーション」
- 2025.01.30 RIETI EBPMセミナー(経済産業研究所) - 「社会的インパクト評価から見たEBPM～WHYとWHATの重視～」
- 2025.02.18 Tideline Compass Series (Tideline) - 「Webinar “The Growth and Formalization of Impact Investing in Asia”」
- 2025.04.08 一橋大学GX/SX経営人財育成プログラム(一橋大学) - 「インパクト投資・評価の現状と課題」

# Social Impact Day 2025

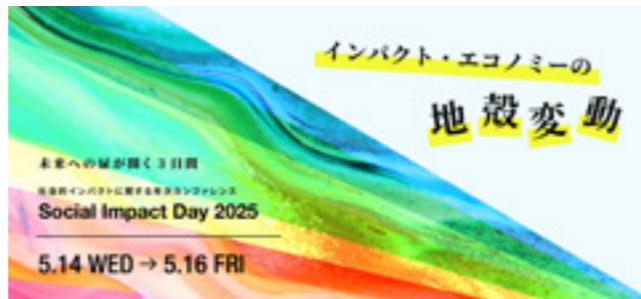
Social Impact Dayは、マルチセクターで社会的インパクトについて学び・議論を深めるための年次イベントです。今回で9回目を迎えた本イベントは、全17セッションに国内外から多彩な登壇者を迎え、550名を超える皆様にご参加いただきました。制度や市場のルールが根本から揺らぎ、社会課題の解決と経済活動との関係性が再定義されつつある今、私たちはどこへ向かうのか。こうした問いに対して、さまざまな立場からの視点を交え、実践者たちの言葉とともに未来を見つめる場となりました。

## Social Impact Day 2025 テーマ

### インパクト・エコノミーの地殻変動



共催



#### Keynote Speech 基調講演

##### 「ベータ・アクティビズム」への招待 ～資本主義の土台を動かす

『Moving Beyond Modern Portfolio Theory: Investing That Matters』  
（『良い投資』とβアクティビズム：MPT現代ポートフォリオ理論を超えて）の共著者である Jon Lukomnik 氏と James P. Hawley 氏が登壇



Jon Lukomnik 氏

Adjunct Professor of International and Public Affairs and The Brandmeyer Fellow for Impact and Sustainable Investing, Columbia University



James P. Hawley 氏

Professor Emeritus, School of Economics and Business, Saint Mary College of California

#### Special Session 1 スペシャルセッション

##### 新たなサステナビリティ開示基準 TISFDとは？～基礎を学び、基準制定に向けた参画を考える



Delilah Rothenberg 氏

Co-Founder and the Executive Director of the Redistribution Initiative (PDI) / Member, Steering Committee, TISFD



木村 武 氏

日本生命保険執行役員、PRI(国連責任投資原則)理事

#### Special Session 2 スペシャルセッション

##### 企業の真価と「インパクト会計」



Christian Heller 氏

Chief Executive Officer, Value Balancing Alliance



Dimitrij Euler 氏

Head of Financial Market Chapter, Value Balancing Alliance



柳 良平 氏

アピームコンサルティング株式会社 エグゼクティブアドバイザー



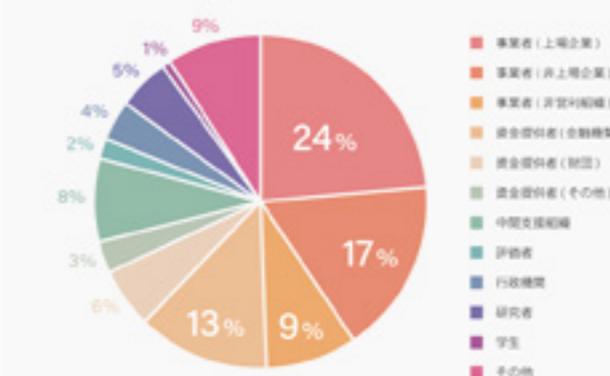
今野 愛美 氏

アピームコンサルティング株式会社 企業価値戦略ユニットダイレクター

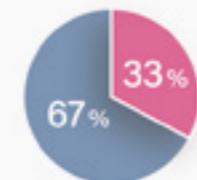
## 数字で見る Social Impact Day 2025

### 申込者数

557名



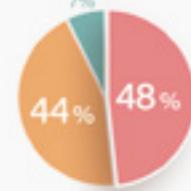
### リピート率



■これまで\*も参加したことがある  
\*第1回 2016年～第8回 2024年  
■今年が初めての参加

\*イベント後のアンケート結果より

### 運営満足度



■大変満足  
■満足  
■どちらでもない  
\*イベント後のアンケート結果より (5段階スケール)

登壇ゲスト数 49名

実施セッション数 全17セッション

### +対面交流会

#### 参加者の声



「ベータ・アクティビズム」のセッションは、より現代に即した"次の投資理論"ということで非常に納得感のある内容でした。



企業サイド（資金提供者）からみたトラスト・ペースト・フィナンソロビー（TBP）の考え方と、企業と社会セクターとの共創価値創出（共助資本主義）の観点が大変参考になりました。



日本企業の本来の価値をきちんと示すことができる未来が近づいていると感じます。公の指標として確立される日が来ることを願います。



「『インパクト投資は世界をよくしているか』論争を超えて～それぞれの山の登り方を理解する～」のセッションで、資金提供者側のダイナミックな動きを知ることができ、勉強になりました。



志の高い企業様のお話しや、特に若いベンチャー企業の方が意欲的に取り組まれているのをお聞きして、とても素晴らしい取り組みであると感じました。新たな開示基準であるTISFDについても、最新の知見を得られて有意義でした。

#### 理事から見た本事業のポイント | 幸地 正樹 | SIMI 業務執行理事

Social Impact Day 2025では、「インパクト・エコノミーの地殻変動」をテーマに、社会や経済の前提そのものを揺さぶる議論が展開されました。特に印象的だったのは、キーノートで語られた「ベータ・アクティビズム」が資本市場に新しい可能性を示したこと、そしてインパクトの意義そのものを問いかね、次の地平を模索したことです。これらの議論は、単なる手法や枠組みの改善を超えて、経済や制度の基盤そのものが変わりつつあると感じられました。

社会的インパクトをめぐる実践は、もはや専門領域に閉じたものではなく、企業経営や政策形成、そして市民社会の営みにまで広がろうとしています。その過程には葛藤も伴いますが、それでもなお潮流は確実に大きくなりつつあります。Social Impact Dayは、その変化をとらえ、多様な視点が交差する震源地として、今後も進化を続けていきます。



SIMI COMMENTS

# 2024年度のその他の活動

2024年度は国内外の関係機関との連携が拡大しました。

## 活動01 | 国内連携の促進

### ◆ インパクト志向金融宣言

国内の金融機関がインパクト志向の投融資の実践を進めるイニシアチブである「インパクト志向金融宣言」には、賛同団体として参加し、運営に携わっています。2024年度は、代表理事の今田が事務局サポート役として、事務局会議の他、各種会議体(月例運営委員会、ワーキングレベル会合)におけるインプットを始め、S指標分科会サポート、その他分科会参加など、幅広くサポートを実施。また、海外連携企画チームとの連携では、海外関係者との各種会合やウェビナー開催を支援しました。



### ◆ GSG Impact JAPAN（旧称：GSG国内諮問委員会）

インパクト投資を世界的に推進するグローバルネットワーク組織「GSG Impact」（旧称：The Global Steering Group for Impact Investment）の日本におけるハブ組織である「GSG Impact JAPAN」には、代表理事の今田が「コア・チーム」一員としてコアチーム会議に参加するなど、今後の組織展開に関する協議に参加しました。



### ◆ インパクト・コンソーシアムへの参画

SIMIは2023年11月に設立されたインパクト・コンソーシアムに会員として参画しており、今田克司代表理事がデータ・指標分科会の座長を務めています。



### ◆ 官民共創HUB

一般社団法人官民共創HUB（運営：中央日本土地建物グループ株式会社）と提携し、「地域の力を引き出す官民共創イニシアチブ構想」について検討を進めています。これまでに、人口減少社会である日本社会が抱える課題の整理や、課題解決に向けた各種取り組みを加速させる方策等について、官民の立場を超えて、関係者が話し合い交流する機会を企画してきました。



### ◆ B Market Builder Japan

SIMIは2024年3月に設立された一般社団法人B Market Builder Japanのオフィシャル・パートナーです。日本のB Corpと共に、今後の更なるムーブメントの促進に協力ていきます。



理事から見た本事業のポイント | 伊藤 健 | SIMI 業務執行理事

2024年度のSIMIの活動は、これまでに引き続いでの事業だけではなく、国際的な組織との連携を含めて取り組みました。社会的インパクトの評価やマネジメントについての基準作りは、企業活動のレポートティングや行政の政策と密接にかかわるところから、国際的な会計基準やマネジメント基準との接合が期待されています。国際的なベストプラクティスを紹介するだけではなく、日本の取り組みとの整合性をどのように見つけ、仕組みとしてゆくかが問われています。この領域も、SIMIの会員や、関連する企業や組織からのSIMIの活動への期待が高いところと認識しています。引き続き皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

SIMI COMMENTS

## 活動02 | 海外連携の促進

### ◆ VBA (Value Balancing Alliance)

VBAは、企業の社会・環境への影響を貨幣換算し、経営や投資の意思決定に組み込む「インパクト会計」の国際的な標準化を推進するドイツ拠点の非営利会員組織です。2024年10月にVBAとの連携に向けて覚書(MOU)を締結しました。VBAとの提携に基づき、日本企業・金融機関に対し、International Foundation for Valuing Impacts、VBA、およびそのパートナーによって共同開発・標準化された「インパクト会計」手法に関する情報提供および助言を行うための優先的な窓口としての役割を担っています。2024年度にはSocial Impact Day 2025にてセッションの開催などを行いました。



### ◆ AVPN

AVPNは、アジア最大級の社会的インパクト投資とフィナンスロビーに特化したネットワークです。2024年10月にAVPNとの連携に向けて、覚書(MOU)を締結しました。本連携を通じて、SIMIはAVPNと共に社会課題解決に向けた取り組みをさらに強化し、持続可能で包摂的なコミュニティの構築を目指しています。



### ◆ TISFD

SIMIは2025年2月にTISFD Allianceのメンバーに加盟しました。TISFD（不平等関連財務情報開示タスクフォース）は、2024年秋に発足したサステナビリティ情報開示のための新しいグローバル・タスクフォースです。TISFDの枠組みは2027年初旬までに完成する予定で、SIMIはメンバーとしてこの取り組みに参画しています。また、TISFDには4つの地域協議会があり、2025年6月より今田克司代表理事がアジア太平洋地域の協議会のメンバーに選出されています。



## 活動03 | グローバルリソースセンター（GRC）

SIMIグローバルリソースセンターは、社会的インパクト・マネジメント、インパクト投資、サステナブル・ファイナンス全般における海外の主要リソースをピックアップして日本語でわかりやすく解説する、情報ポータルサイトです。社会的インパクト・マネジメントを取り巻く概念を、「社会的インパクト・マネジメント」「サステナブル・ファイナンス」「インパクト投資」「新しい資本主義」の4つのテーマに分類。各テーマの概要や、注目すべきサブテーマ、主要なプレイヤーを紹介し、その内容や重要性について解説しています。2024年度も注目すべき資料の翻訳を行いました。



2024年インパクト・マネジメントの  
ベンチマーク・スタディ  
Making the Mark 2024  
著者: Blue Mark  
発行年月: 2024年6月



インパクトステートメント  
- インパクト開示のためのガイド  
Impact Statement - Guidance Note to Presentation of Impact Data  
著者: Value Balancing Alliance  
発行年月: 2024年11月

# メンバーシップ制度のご案内

日本全体に「社会的インパクト・マネジメント」を普及させることを目指し、SIMIの理念に共感・賛同し共に活動を推進するメンバー(組織・個人)を募集しています。2025年6月現在、約130の組織・個人がメンバーに登録しています(賛同メンバー制度は2024年10月をもって廃止しました)。

## エンゲージド・メンバー(有償)

SIMIのエンゲージド・メンバーはセクター、業種共に多岐にわたります。また、初めて社会的インパクト・マネジメントに触れた方から、実践を進めている方まで、さまざまな背景を持つ方々が参加しており、インパクトをめぐって集う人の輪は一層広がり多様性も増していると感じています。

インパクト・マネジメントの実践における課題や悩みをざくばらんに共有したり、最新のテーマについて考える「エンゲージド・メンバー限定情報交換・交流会」を定期的に開催しています。

### 2024年度に取り上げたテーマ

社会的インパクト・マネジメントにおけるS指標の考え方(2025年1月開催)

SIMIは、単なる情報発信にとどまらず、「インパクト」に関心を持つ仲間が集い、共に考え、未来を描く場を今後も育んでいきます。オンライン・オフライン双方での機会もさらに広げていきますので、ぜひご参加ください。

### 会員特典

- ① 10万円 : 前事業年度の売上高もしくは収入額が1億円以上の組織(非営利・営利を問わず)
  - ② 5万円 : 前事業年度の売上高もしくは収入額が1億円未満の組織(非営利・営利を問わず)
  - ③ 1.2万円 : 個人
- ※SIMIの会計年度は7月～6月のため、会員更新は毎年6月末となります。
- ① エンゲージド・メンバー限定のSIMに関する勉強会・交流会への参加権利
  - ② Social Impact Dayの無料招待、SIMに関する研修、イベントなどの参加費の割引
  - ③ SIMIのWebサイトやFacebook、ニュースレターにおける、SIMに関連するサービスやイベント情報、求人情報などの発信(組織会員のみ、年4回まで)
  - ④ SIMIのWebサイトにおけるロゴまたは組織名の掲載(組織会員のみ)

### ご登録方法

ウェブサイト<sup>\*3</sup>の登録申込ページよりフォームに必要事項をご入力の上、ご送信ください。内容を確認後、事務局より連絡いたします。ご不明な点がありましたら、事務局([info@simi.or.jp](mailto:info@simi.or.jp))までお問い合わせください。

#### 理事が考えるメンバーシップ制度のポイント | 高木 麻美 | SIMI 業務執行理事

SIMIでは毎年、多様な場をつくりています。前年度に引き続き2024-25年度も、共に考え、行動する機会を広げてきました。初めて社会的インパクト・マネジメントに触れた方から、実践を進めている方まで、さまざまな背景を持つ方々にご参加いただき、この1年でインパクトをめぐって集う人の輪は一層広がり、多様性も増していると感じています。

エンゲージド・メンバーとして、あるいはイベントやプログラムを通じて参加する中で、社会課題解決やイノベーション創出への意欲を持つ方、新たな取り組みを始めた方など、幅広い立場の方々が関わっています。Social Impact Day 2025では、「インパクト・エコノミーの地殻変動」をテーマに、それが広がってきたからこそ生じる課題も明らかにしながら、マルチセクターで乗り越えていくための対話を行いました。また、「エンゲージド・メンバー限定情報交換・交流会」で社会的インパクトやマネジメントの実践、S指標の考え方について共有・議論を行いました。この情報交換会・交流会には、正解が見えにくい中で試行錯誤を重ねる参加者も多く、課題や悩みをざくばらんに共有し合える場としての役割も果たしています。

また、SIMIは、単なる情報発信にとどまらず、「インパクト」に関心を持つ仲間が集い、共に考え、未来を描く場を今後も育んでいきます。オンライン・オフライン双方での機会もさらに広げていきますので、ぜひご参加ください。



SIMI COMMENTS

# 組織概要

名称 一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ  
(英文表記: Social Impact Management Initiative)

設立 2020年10月

登記住所 東京都渋谷区

代表者 今田 克司 代表理事

設立者 ケイスリー株式会社  
一般財団法人社会変革推進財団  
特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン  
特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会  
株式会社ブルー・マーブル・ジャパン

評議員 青柳 光昌 一般財団法人社会変革推進財団専務理事  
濵澤 健 コモンズ投信株式会社取締役会長、  
シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役  
水口 剛 公立大学法人高崎経済大学学長  
源 由理子 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科専任教授

監事 勝 伸幸 弁護士 長島・大野・常松法律事務所  
上原 丈弥 タイガーモブ株式会社CFO

理事 伊藤 健 特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン代表理事(業務執行理事)  
今田 克司 株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役(代表理事)  
鴨崎 貴泰 特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会常務理事(専務理事)  
幸地 正樹 ケイスリー株式会社代表取締役(業務執行理事)  
高木 麻美 株式会社Stem for Leaves代表取締役(業務執行理事)

ウェブサイト <https://simi.or.jp/>

#### 理事からのメッセージ | 鴨崎 貴泰 | SIMI 専務理事

SIMIは「あらゆる組織の社会的インパクト・マネジメントを促進するとともに、組織や業界、活動分野を越えた参画・協働を加速する共創基盤を提供すること」をミッションに掲げるマルチセクター・イニシアチブです。

今年度も業界、分野、さらに国境を超えた新たな連携・協働の元、社会的インパクトを生み出すことができました。

来年度もインパクト志向での事業運営や業界、分野を超えた仕組みづくりなどに关心のある企業・団体の皆様に様々な機会からSIMIの活動へ参加いただければと思います。



SIMI COMMENTS

# 会計報告

## 正味財産増減計算書

### I 一般正味財産増減の部

|           |            |
|-----------|------------|
| 1. 経常増減の部 |            |
| (1) 経常収益  |            |
| 経常収益計     | 35,111,451 |
| (2) 経常費用  |            |
| 事業費計      | 28,060,452 |
| 管理費計      | 3,082,456  |
| 経常費用計     | 31,142,908 |

### 2. 経常外増減の部

|              |            |
|--------------|------------|
| (1) 経常外収益    |            |
| 経常外収益        |            |
| 前期損益修正益      | 0          |
| (2) 経常外費用    |            |
| 経常外費用        |            |
| 前期損益修正損      | 55,750     |
| 当期経常外増減額     | ▲ 55,750   |
| 税引前当期正味財産増減  | 3,912,793  |
| 法人税、住民税及び事業税 | 70,000     |
| 当期一般正味財産増減額  | 3,842,793  |
| 一般正味財産期首残高   | 10,603,269 |
| 一般正味財産期末残高   | 14,446,062 |

### II 指定正味財産増減の部

|             |           |
|-------------|-----------|
| 一般正味財産への振替額 | 0         |
| 当期指定正味財産増減額 | 0         |
| 指定正味財産期首残高  | 3,000,000 |
| 指定正味財産期末残高  | 3,000,000 |

### III 正味財産期末残高

17,446,062

## 貸借対照表

### I 資産の部

|         |            |
|---------|------------|
| 1. 流動資産 |            |
| 普通預金    | 25,293,362 |
| 仕掛品     | 0          |
| 未収金     | 3,300,000  |
| 流動資産合計  | 28,593,362 |
| 資産合計    | 28,593,362 |

### II 負債の部

|         |            |
|---------|------------|
| 1. 流動負債 |            |
| 未払金     | 9,591,700  |
| 前受金     | 920,000    |
| 未払法人税等  | 70,000     |
| 未払消費税   | 565,600    |
| 預り金所得税  | 0          |
| 流動負債合計  | 11,147,300 |
| 負債合計    | 11,147,300 |

### III 正味財産の部

|            |            |
|------------|------------|
| 1. 指定正味財産  | 3,000,000  |
| 2. 一般正味財産  | 14,446,062 |
| 正味財産合計     | 17,446,062 |
| 負債及び正味財産合計 | 28,593,362 |

2024年7月1日から2025年6月30日まで (単位:円)